

学びに向かう力を育成する教育の充実

—— 未来につなぐキャリア教育の視点を通して（中学校） ——

キーワード 学びに向かう力 キャリア教育の視点 主体的に学習に取り組む態度
「かふやみ力」 「かふやみ20の力」 児童生徒学習用動画
「キャリア発達 新たな一歩」 「未来シート」 中学校
各教科等の目標(3) 単元デザイン 主体的・対話的で深い学び



I はじめに

「人生100年時代」と言われる今日、Society5.0と呼ばれる新たな時代の到来により、社会の在り方そのものが大きく変わる状況が生じつつある。このように目まぐるしく変化する予測困難な社会では、幼児児童生徒に対して、確かな学力を身に付けさせることや、協働しながら新たな価値を生み出し主体的に社会に関わっていかうとする態度を今まで以上に育むことが求められている。

中央教育審議会(2021)の『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」（以下、2021答申）において、学びに向かう力は、「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、学習の進め方を自ら調整できるよう、発達の段階に配慮しながら育成することが大切である」と述べられている。また、学ぶことと将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること等も示されている。つまり、学びに向かう力の育成には、キャリア教育の充実が肝要であると考えられる。

「沖縄県教育振興基本計画(令和4年度～令和13年度)」(以下、県教育計画)では、教育の目標を「自ら学ぶ意欲を育て、学力の向上を目指すとともに、豊かな表現力と粘り強さをもつ幼児児童生徒を育成する」と提唱している。特に、小・中学校では、「自己肯定感を育み、協働して様々な課題を解決していく態度の育成」、高等学校では「目的意識の明確化を図ることで主体的に学ぶ意欲の向上」が掲げられている。そのためには、「子どもに学ぶ目的や意義を自覚させるとともに、自ら考え、計画して、行動に移すことのできるようキャリア教育の視点で学習意欲を高める取組を進めていく必要がある。」と打ち出されている。

そのような中、本県児童生徒の実態として、令和3年度全国学力・学習状況調査質問紙から、「違う意見について考えるのは楽しい」「思いや考えをもとに新しいものを作り出す活動を行っている」に対して肯定的な回答が低く、課題として挙げられる(以下、R3学調課題)。また、「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII」(以下、PPII)では「中学校期の学力課題の改善」を重点事項の一つとして挙げている。さらに、令和3年度に当教育センターで教職員向けに実施した出前研修や夏期短期研修におけるアンケートから、学びに向かう力の捉えや主体的に学習に取り組む態度の評価に関する困り感があることが分かった。

そこで、本研究では「学びに向かう力を育成する教育の充実」をテーマに中学校において研究を進める。各教科等の特質に応じた授業改善を図り、生徒の学びに向かう力の育成を図っていく。その際、過去のプロジェクト研究におけるキャリア教育の理論を活用する。具体的には、『中学校学習指導要領(平成29年告示)』(以下、『指導要領』)の各教科等における目標(3)に着目し、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善を図る。特に、単元など内容のまとまりにおける主体的に学習に取り組む態度を見取るまでの授業例を単元デザインとして提示する。何より、県内中学校において汎用性のある実践となることに留意して取り組んでいく。そして、本研究終了後は学校現場へ研究内容を提供し、学校教育の充実や学校支援に資することを旨とする。

なお、本稿では2021答申や県教育計画等以外にも、次のように各種資料等を表記する。

本稿での表記	正式名称
『総則編』	『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編』
2016 答申	中央教育審議会(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」
2019 報告	文部科学省(2019)「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」
2022 参考資料	文部科学省(2022)「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料(令和3年3月版)」

Ⅱ 研究内容

1 学びに向かう力について

(1) 学びに向かう力とは

学びに向かう力という言葉は、2016答申において、「生きる力」を具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力の柱の一つとして提言された用語である。『総則編』では、「学びに向かう力、人間性等」として明示されており、その他の答申等においても「学びに向かう力、人間性等」と記されている場合が多い。この「学びに向かう力、人間性等」について、『総則編』では、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかという学びを人生や社会に生かそうとする資質・能力であることが述べられている。加えて、他の二つの資質・能力である「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であることも指摘されている。そして、2022参考資料では図1の記載がある。

「学びに向かう力、人間性等」は児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。具体的には主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等があり、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものです。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれます。

図1 学びに向かう力、人間性等について（下線は本稿執筆者による）

この記載から、明確に読み取れることが二つあると考える。一つ目は、下線部分より「主体的に学習に取り組む態度」は学びに向かう力であるということである。二つ目は、文末の「リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやり」は人間性等を意味しているということである。その他の部分に関しては、読み手によって様々な解釈があると考えられる。つまり、学びに向かう力と人間性等は切り離して考えることは容易ではなく、むしろ相互に連動し合っているものと捉える方が自然である。また、2021答申において「学びに向かう力、人間性等」の見取りは、表1のように①、②があると指摘されている。このことから学びに向かう力を主体的に学習に取り組む態度として見取ることを通して、その力が育まれたかどうかを判断することができると考える。

以上より、本研究において学びに向かう力を育成するとは、『指導要領』における各教科等の目標(3)の育成を目指すことと捉える。そして、学びに向かう力が育まれたかどうかは「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通して見取ることとする。

表1 「学びに向かう力、人間性等」の見取り

①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、
②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があります。

(2) 学びに向かう力を育むために

2019報告において、学びに向かう力を主体的に学習に取り組む態度として見取る際に、次の2点に留意する必要があることが指摘されている。①粘り強い取組を行おうとする側面と、②自らの学習を調整しようとする側面である。つまり、学びに向かう力は一朝一夕に育めるものではなく、ある程度の時間を通して育み、その過程も踏まえて見取っていくことが重要である。よって教師には、①②に向かわせる授業づくり、授業改善が求められる。

具体的には、児童生徒自身に学習の目標や見通しを持たせるとともに、卒業時、あるいは年度末や学習単元末にどのような力が身に付いてほしいかを意識した単元デザインを行い、実際の授業において具現化していくことである。その際、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元デザインを行うことが鍵である。その実現のために『総則編』では、特に主体的な学びとの関係から「生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要になる」ということが示されている。

このことから、本研究においては、キャリア教育の視点を取り入れていく。当教育センターでは、令和2～3年度にかけて、「一人一人のよさを未来へつなぐキャリア教育の在り方～カリキュラム・マネジメントの視点を通して～」というテーマの基にプロジェクト研究を行ってきた（以下、過年度プロジェクト研究）。そこで、これらの研究の成果を取り入れ活用しながら、各教科等において単元デザインを行い、学びに向かう力を育成する教育の充実を図っていくこととする。

2 未来につながるキャリア教育の視点について

(1) 過年度プロジェクト研究におけるキャリア教育について

キャリア教育について、『沖縄県キャリア教育の基本方針』（2020）では「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育」と定義されている。そして、キャリア教育で育成すべき能力として「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4領域が示されている。さらに、これら4領域をそれぞれ「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力」と言い換えている（表2）。

表2 キャリア教育で身に付けさせたい4つの力（視点）

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
かかわる力	ふり返る力	やりぬく力	みとおす力
多様な集団の中で他者とかかわる力、進んで考えや気持ちを伝え合う力、人や地域を大切に思う気持ちや感謝する心、協力する力、社会に参画し、社会を積極的に形成する力 など	行動を振り返り、改善につなげる力、自己の役割を理解する力、情報・助言を正しく理解し自分を見つめる力、自分の良いところを見つめる力 など	問題を発見できる力、問いを立てる力、課題に対応した計画を立案する力、計画を実行する力、発想（想像）する力、間違いや他人との違いをおそれない力、最後まで粘り強くやり通す力 など	将来を想像する力、自分の目標を設定する力、目標設定のために計画を立てる力、立てた目標を確認し次につなげる力、自ら主体的に判断して、キャリアを形成していく力 など

過年度プロジェクト研究では、これらに加え、本県で設定されているキャリア教育の目標や目指す児童生徒像も踏まえながら実践研究を行ってきた。具体的には、「かかわる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力」をキャリア教育における視点とし、さらに、この4視点の頭文字をとって「かふやみ力」と称して、各教科等の単元や授業計画等において意識的に位置付けて展開し、その過程を例示した（図2）。

この実践を進めるには、教員自身がキャリア教育や「かふやみ力」、さらにその具体的な20の力（以下、「かふやみ20の力」）などについて理解を深めておく必要がある。そのため「キャリア教育 はじめの一步～目指す児童生徒像×4つの力～」というテーマで校内研修用動画を作成した（図3）。

この動画は「きゅーちゃん」というイメージキャラクターの進行で展開しており、キャリア教育の目標や「かふやみ20の力」への理解を深めながら、各校における児童生徒の伸ばしたい力を見つけていくことがゴールとなっている。また、研修スタイルとして講義だけではなく、複数人で作業するカードワーク等を取り入れている。このようなワークショップ形式での学びを取り入れることで、教員自身の「かふやみ力」を高めることも目的としている研修用動画である。表3はこれらの取組の主な成果と課題である。

表3 過年度プロジェクト研究における主な成果と課題

成果	授業づくりにおいて4つの力を意識することで、児童生徒が目的意識を持ち、友達とかかわり様々な意見に出合い、考えを深めたり主体的に学習や行事に取り組んだりする姿が見られた。教師の授業改善にもつながった。各実践事例等を Web 等で発信することで、各学校での利活用を促進した。
課題	児童生徒の「今」と「これから」を結び付け「学ぶ意義」を明確にした授業づくりと、児童生徒が「自分のよさ」を認識し自己肯定感を高める取組の継続が必要である。学級や学年、各教科だけの取組だけではなく、学校全体としての取組が必要である。



図2 「かふやみ力」を位置付けた授業例の一部

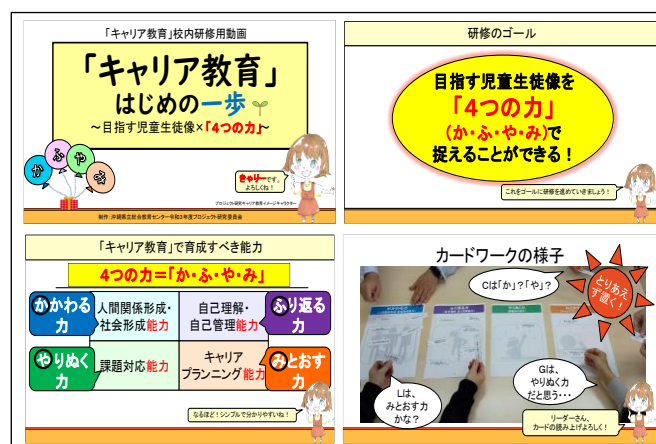


図3 校内研修用動画（教師用）の一部

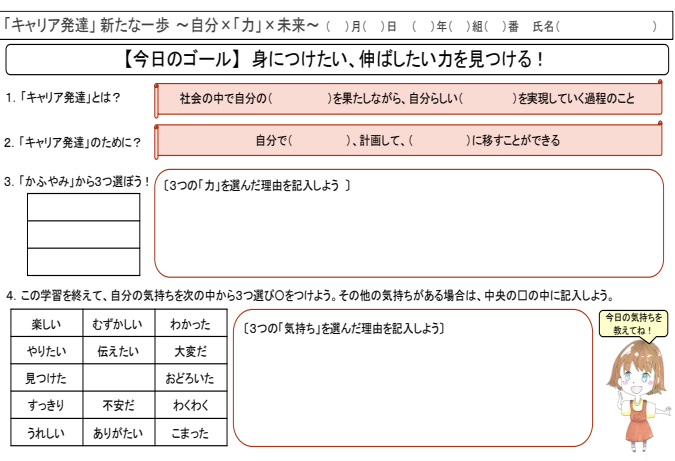
表3において、特に課題の部分に注目したい。「学ぶ意義」を明確にした授業づくりと児童生徒自身が自己肯定感を高める取組が求められていることが読み取れる。このことは、学びに向かう力の育成を図ることの重要性をうかがわせている。また、児童生徒の今とこれからを結び付ける点が弱かったということは、教員と児童生徒双方に、「みとおす力」や「ふり返る力」を意識することが弱かったとも捉えられる。これらより、『総則編』の具現化にあたって、学びに向かう力を育成するための授業づくりは喫緊の課題と言える。また、教員だけではなく、児童生徒自身もキャリア教育の視点を持った学習活動を行うことで、より一層、今と未来を意識するなど、新たな効果が見出せようである。加えて、学校全体で行うことで、更なる相乗効果が期待できると考えられる。

(2) 学びに向かう力を育成するためのキャリア教育の取り入れ方について

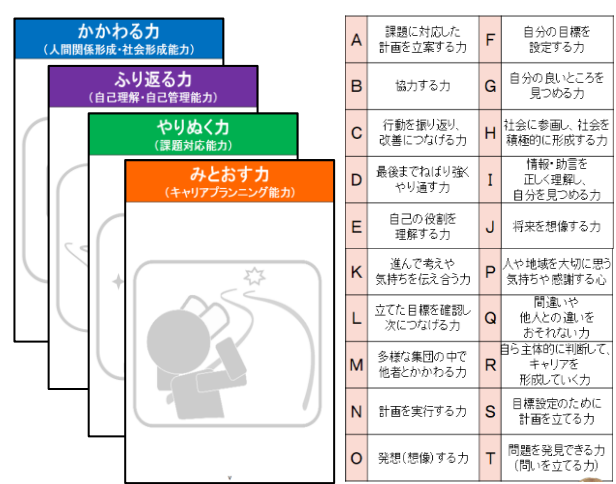
本研究では、学びに向かう力を育成するために、教育活動全体にキャリア教育の視点を仕掛けていく。教員のみならず児童生徒にもキャリア教育の視点を意識させることを目指したい。そのために、過年度プロジェクト研究において作成した校内研修用動画をアレンジして児童生徒学習用動画を作成する。「キャリア発達 新たな一歩～自分×『力』×未来～」というテーマで作成し、一コマ（約50分程度）で学習できる内容とする。授業展開にあたっては「身に付けたい、伸ばしたい力を見つける！」を学習のゴールに据え、ワークシートを併用しながら「かふやみ力」及び「かふやみ20の力」への理解を深めさせていく。また、職員研修版と同様に一グループ4人程度で行うカードワークを取り入れることで、協働しながら合意形成が図られることを意図していく。そして、授業のまとめでは、「かふやみ20の力」の中から、学年末までに身に付けたい、伸ばしたい力を3項目選ばせ、その理由を記述させる。以下、図4において、関連するワークシート等の教材を例示する。具体的な実践紹介やその効果については、本稿7頁と50頁に記載する。



①児童生徒学習用動画の表紙



②ワークシート



③カードワーク用の台紙とカードセット



④「かふやみ20の力」一覧表

図4 「キャリア発達 新たな一歩」（児童生徒学習用動画）で用いる教材等

本研究では、この動画による学習を特別活動における学級活動で実施する。そして、その後の各教科等における授業実践に図5のようなシートを用いることで生かしていく。これは、単元学習の最初に「かふやみ20の力」から本単元学習において伸ばしたいと思う力を児童生徒自身が選び、単元末に顔マークを用いて自己評価することで自らの変容を確認できるシートである。その際、選択したもの以外にも「伸びた！」と自己評価する力についても記入できる欄を設けている。また、なぜそのような自己評価をしたのか、その理由も記述するように作成している。

本研究では、このシートを「未来シート」と名付けることで、児童生徒に親しみや高揚感を持たせながら各教科等において運用していくこととする。そうすることで、児童生徒自身が単元学習において、より一層、見通しを持って取り組み、その過程や達成状況を自己評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整することを期待したい。同時に、教員と児童生徒双方がキャリア教育の視点を持って学習活動にアプローチしていくことで、未来につなぐキャリア教育の充実を図るとともに、学びに向かう力の育成に働きかける有効な手立てとなることを目指す。そして、本県がP P IIで重点事項の一つとして挙げている「中学校期の学力課題の改善」の一助となることも視野に、北中城村立北中城中学校を研究協力校として取り組むこととする。

科	【自分×「力」×未来シート】 ()年()組()番 氏名()			
1. 単元名				
2. この単元学習で伸ばしたい力	か②	ふ①	や③	み⑤
3. 単元学習後の自己評価	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊	😊😊😊😊😊
4. 2以外にも伸びたと思う力	ふ③			
5. 3と4の理由	なぜなら・・・			

単元学習始めに記入

単元学習最後に記入

一例です！

図5 各教科等で用いるシート（通称「未来シート」）

3 研究協力校について

北中城村立北中城中学校（以下、協力校）は、沖縄本島中部に位置する一村一中学校で、一学年5クラス、総職員数50名弱という規模の学校である。令和4年度の学校教育目標に「健康で明るく他を思いやり向上心を持って自ら学び行動できる生徒」を掲げ、「主体的・対話的で深い学びに向かう生徒の育成～キャリア教育の視点を活かした授業改善を通して～」を校内研修テーマとしている。これは、本研究のテーマと合致している。

そこで、共に足並みをそろえながら生徒の学びに向かう力を育成するために、キャリア教育の視点を各教科等の授業を中心とする学校教育活動に取り入れていくこととした。そのために、協力校において表4のように研修計画等を企画した。そして、校内研修①～④と並行しながら、各教科等において、研究協力員（以下、協力員）を設定し実践研究を進めることとした。

当教育センターの使用施設等の都合上、「総合的な学習の時間」は6月実施となったが、その他の教科等については、8月に実施している「夏期短期研修講座」も活用しながら協力員と単元デザインを企画していった。また、8月末の二学期開始時に「キャリア発達 新たな一歩」児童生徒学習用動画を取り入れた学級活動を設定した。この学習を踏まえて、各教科等における学びに向かう力の育成を目指し、「未来シート」を取り入れた授業実践を開始することとした。

表4 本研究に関連する協力校の研修計画等

月	主な内容
	★校内研修②～④は当教育センター主事が講師 ■本研究の実践1～12に該当する内容
4	校内研修①：「キャリア教育 はじめの一歩」の実施
5	★校内研修②：「予防的・開発的教育相談」の実施 〔講師：大城エリカ〕
6	事前アンケートの実施（教師・生徒対象）
	研究授業：「かふやみ力」を位置付けた授業の実践 〔実施教科（学年）授業者：国語（1）上地みこと教諭、理科（1）眞喜志康太教諭、家庭科（2）東町子教諭〕
	■生徒実習：「総合的な学習の時間」の体験学習 〔場所：当教育センター産業教育棟、実施学年：第2学年〕
8	当教育センター主催「夏期短期研修講座」（各教科別） ■学級活動：「キャリア発達 新たな一歩」の実施
9	★校内研修③：「学習評価」の実施 〔講師：グレイ雅美・上原琢磨〕
	■実践研究：「かふやみ力」及び「未来シート」を取り入れた単元デザインの実践開始（～11月）
10	★■校内研修④：「特別支援教育」の実施 〔講師：上原久美子・湧武真也〕
11	事後アンケートの実施（教師・生徒対象）

Ⅲ 実践研究

本研究では、各教科等において単元デザインを行っていくために表5のように計画した。このように、学校教育活動の大部分において本研究を実践した。具体的な各教科等の単元デザインにおいては、「未来シート」以外にも、パフォーマンス課題の設定やOPPシート等の活用、地域人材の活用など、各教科等特有の手立てを取り入れていくことにも留意した。キャリア教育の視点だけではなく、これら各教科特有の手立てとの相乗効果によって、学びに向かう力の育成を目指すこととした。特に、主体的・対話的で深い学びからの授業改善となることや、県内中学校に汎用性のある実践となることを意図した。図6に本研究のイメージ図を示す。

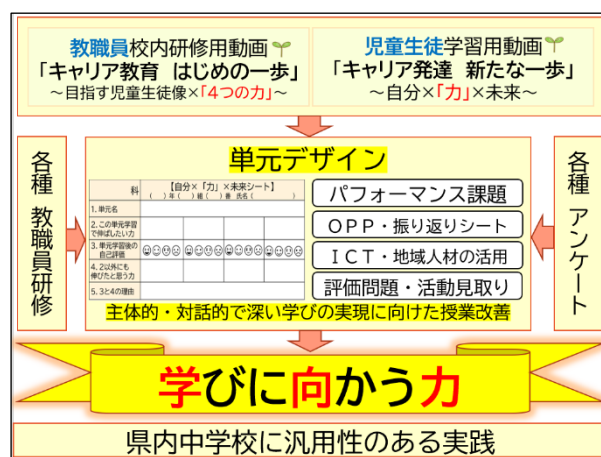


図6 本研究のイメージ図

表5 各教科等の実践単元や特有の手立て、及び研究協力員等一覧

実践番号	教科名等	学年	単元・題材名等	各教科等特有の主な手立ての例	協力員(授業者)	本稿掲載頁
実践1	特別活動(学級活動)	全	キャリア発達 新たな一步	動画、カードワーク ワークシート	久保田 知世 各学級担任	4、7、50
実践2	国語	3	おくのほそ道	俳句創作 振り返りシート	長 渡 聖	8～11
実践3	社会(地理的分野)	1	アフリカ州	パフォーマンス課題 OPPシート	我如古 優子	12～15
実践4	数学	3	関数 $y=ax^2$	考えの伝え合い 振り返り	島 袋 幸 枝	16～19
実践5	理科	3	力学的エネルギー	パフォーマンス課題 単元振り返りシート	川上 弘太郎	20～23
実践6	音楽	3	合唱	題材振り返りシート ワークシート	久保田 知世	24～27
実践7	美術	2	地域の魅力を伝える	パフォーマンス課題 地域人材の活用	浜 崎 美 奈	28～31
実践8	保健体育	1	バスケットボール	OPPシート 活動の見取り方	安 里 亮	32～35
実践9	技術・家庭(技術分野)	2	計測・制御のプログラミング	パフォーマンス課題 ワークシート	石 川 一 彦	36～39
実践10	外国語	2	Unit5 Earthquake Drill	パフォーマンステスト(課題) ワークシート	砂 川 翔	40～43
実践11	総合的な学習の時間	2	産業教育実践講座	ミッション(パフォーマンス課題) ICTの活用	石 川 一 彦 花 城 清 生	44～47
実践12	特別支援教育	支援 学級	SDGs 自分に できることを考えよう	特別支援教育の視点 ICTの活用	佐久本 博美	48～49

次頁より、実践事例を示す。また、実践2～11においては、各教科等の目標と実施単元の目標、及び評価規準について、関連性を踏まえて明記している(図7)。特に、教科の目標を踏まえ、各学校において設定することになっている単元の目標「学びに向かう力、人間性等」と単元の評価規準「主体的に学習に取り組む態度」に着目していただきたい(図7太枠部分)。また、単元デザインとしての「指導と評価の計画」だけではなく、「キャリア教育の視点を踏まえた授業改善」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価の進め方とその評価の実践についても例示することとした。

○教科の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)	(2)	(3)
○単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
(1)	(2)	(3)
○単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

図7 目標と評価規準の関係性を踏まえた表記例